

a 学校教育目標	考え方、表現し、自ら伸びる生徒の育成 ～自立・尊重・向上～			b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域に「元気」と「感謝」を届ける誇りある学校					
----------	----------------------------------	--	--	----------------------	--	--	--	--	--	--

評価計画				自己評価					改善方策		学校関係者評価		
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価		m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	
確かに学力の育成	主体的な学びを促す授業づくり	学力向上を意識した授業改善	・主体的な学びを促す授業づくり(PBL=プロジェクト型学習)に係る校内研修の定期的実施 ・ICT機器の効果的な活用 ・学校図書館の機能の活用、NIEの導入	①「授業の内容がよく分かりますか」に対する肯定的答率85%以上。R80は100% ②学力調査(実力テスト等)の結果が全国平均に対し101%平均点以上の生徒の割合60%以上	1以上	①89.8% 94.6% ②97.2% 46.7%	①106% 94.6% ②96.2% 77.8%	B	・授業理解度に係る生徒アンケートの肯定的答率89.8%。 ・R80実施率に係るアンケートの肯定的答率94.6%(生徒94.3%、教職員94.8%)。 ・学力調査において、本校平均は全国平均比97.2%、全国平均点以上の生徒の割合46.7%。1年生においては、全国平均比108.8%と高い成果を上げており、特に理科で顕著な伸びが見られた。一方、2・3年生では数学を中心に課題が見られるため、学習意欲を生かした基礎学力の補充・定着が今後の重点課題である。	・各教科・学年部で協議した学力補充シートに沿って重点項目の指導を行う。国語科では条件付き作文の実施、数学科では文章題の題意を捉えさせるため、問題文の読み上げ・下線引きと、練習問題の繰り返しを行う。 ・生徒の成果物への評価や他の生徒への共有場面を多く設定する。 ・全国学力テスト・標準学力調査等の問題分析から課題を絞り、年間の授業を通して実践と評価のサイクルを継続的に進める。	6		・授業参観をして、生徒が授業の中で聞きやすい雰囲気を作ってくれていると感じた。 ・親の教育力は今あまり求められない。学校・地域がしっかりと子どもを褒めてやる気を出させていかなくては。 ・生徒は学習意欲が高いが、結果につながっていないことが五中の課題。小中で連携して取り組むことが大事だと思う。 ・学習の定着は、読書量が減っていることも関係しているのでは。自分で本から情報を得て、本の中から将来のこと等を考える時間がなくなっているのでは。また、家庭内の会話が大切だが、足りていないと思う。 ・親が我が子の学習時間を把握していないのでは。家庭学習の実態は保護者の課題でもある。学校の指導が保護者に響いていないよう思う。保護者に働きかけを続けることが必要。PTA独自の研修会をもつとすることがあるのではないか。
			・毎時間の授業でのR80の充実 ・モジュール学習の実施と工夫 ・家庭学習習慣の確立	・モジュール学習は一定の成果が見られるものの、基礎基本の定着・学び直しが必要である。 ・生徒アンケート結果から、平日の家庭学習時間1時間以上29.8%、0時間10.2%。休日0時間38.1%という学年があり、家庭学習の定着とその指導が課題である。					・授業で振り返り活動を実施し、授業改善につなげることができている。今後、R80を100%実施し、振り返りで見えてきた生徒のつまずきに焦点化した授業改善が必要である。 ・モジュール学習は一定の成果が見られるものの、基礎基本の定着・学び直しが必要である。 ・生徒アンケート結果から、平日の家庭学習時間1時間以上29.8%、0時間10.2%。休日0時間38.1%という学年があり、家庭学習の定着とその指導が課題である。	・前時や既習事項との繋がり、各教科との繋がりをもたせた授業実践を行う。生徒のつまずきを取り上げ、そこから深める授業改善を推進する。 ・引き続きモジュール学習の実施と学力向上部を活用した学び直し・復習の場を設定する。 ・授業との接続を意識した課題を家庭学習に反映させる。また、家庭学習が不十分な生徒に対して声掛けを行うとともに、放課後学習等、家庭学習をサポートする場を設定する。	6		・親が我が子の学習時間を把握していないのでは。家庭学習の実態は保護者の課題でもある。学校の指導が保護者に響いていないよう思う。保護者に働きかけを続けることが必要。PTA独自の研修会をもつとすることがあるのではないか。
たくましい心身の育成	自己指導能力の育成(自ら考えより良く判断し行動する力)	自己肯定感と自己有用感を高める教育活動	・生徒主体の活動(縦割り掃除・運動会・祭り等)の充実 ・学級集団作り(学級活動の授業改善) ・命を守る防災教育の実施 ・地域への貢献活動の	③「自分には良いところがあります」に対する肯定的な回答率85% ④「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思います」肯定的答率80% ⑤その他生徒アンケートにおける「学校生活への満足度」についての肯定的評価80%	1以上	③85.3% ④79.2%	③100% ④99%	B	・評価指標に係る生徒アンケートの肯定的答率は、自己肯定感85.3%、地域・社会貢献の意欲、79.2%、学校生活満足度91.4%。 ・運動会等の学校行事、部活動や生徒会活動に取り組む中で、自己肯定感を高めることができた。 ・可能な範囲で、地域行事を話題に出し、生徒に関心を持たせ、参加意欲の高揚につなげる必要がある。	・クラス単位、学年単位の特別活動において、協働活動・話し合い等を通じて、生徒の自己肯定感を高める取組を行う。 ・祭り等の学校行事、生徒会活動等で活躍する場面を仕組み、振り返り・評価で自己肯定感を高める。 ・校内掲示している地域のたよりの中で、参加可能な行事や体育大会等参加した行事を話題に取り上げる。生徒会執行部・各部活動と連携し、参加可能な地域行事への参加を促す。	6		・中学生は、自主自律がでてほしい。高校に行っていても保護者に見てもうわけにはいかない。また、五中は立地条件的に高校に通いやすいが、生徒に目標が必要なのではないか。子どもは行きたい学校があれば勉強する。そこに目を向けさせてほしい。 ・そのためキヤリア教育が大事。職場体験もその一つ。自分がなりたいものに向かって、学力・人間力をつけていくことが大事だと思う。 ・スマホについての課題は、学校の指導というより、家庭との連携でしかうまくいかない。 ・五中保護者は気持ちの上で割と安定しており、生徒もさほど荒れず安定しているようだ。 ・子育ては地域の責任。地域の子供への関心が、以前より低いと思う。地域・PTA・学校それぞれに役割があり協力することで大きな力になる。
			・生徒指導委員会、不登校・教育相談委員会の充実 ・生徒アンケート・i-check等による実態把握と組織での早期対応 ・長期欠席・不登校生徒数の増加への対応、取組強化	⑤91.4%	⑤114%	A	・テスト週間に担任による教育相談を実施し、生徒理解を深めるよう取り組んだ。 ・i-checkの結果を踏まえ、担任面談を行い、生徒理解・学級の実態把握に取り組んだ。事案について不登校・教育相談委員会で検討し、よりきめ細やかな生徒支援を行っていく必要がある。 ・教職員で教育相談委員会を定期的に行い、効果的な不登校支援を行うよう努めた。	・授業改善や学校行事の充実、特別活動の充実など共感的人間関係づくりを強化し、他者を通じた自己肯定感を高める取り組みを実践していく。 ・スクールカウンセラーやSSW、校内ふれあい教室、関係機関等と連携し、教職員が生徒理解を深められるよう継続して取り組んでいく。 ・日々の授業や学習にしんどさを感じている生徒への支援について、教職員全体で策を検討する。	6		・スマホについての課題は、学校の指導というより、家庭との連携でしかうまくいかない。 ・五中保護者は気持ちの上で割と安定しており、生徒もさほど荒れず安定しているようだ。 ・子育ては地域の責任。地域の子供への関心が、以前より低いと思う。地域・PTA・学校それぞれに役割があり協力することで大きな力になる。		
働き方改革の推進	子供と向き合う時間の確保	効率的で組織的な校務運営・業務改善	○校内各種委員会の定例化・活性化、進行管理の徹底と改善 ○ボトムアップによる業務改善の推進、行事等の見直し ○教職員の学びの時間の確保	⑥「第五中学校で働いてよかったです」と回答する教職員の割合80%以上	⑥80.0%	⑥100%	A	・教職員アンケートで本校への満足度の項目に肯定的に回答した教職員の割合80.0%。 ・定例の校内各種委員会において、主任・主事・各分掌・学年部の意見を事前連携・起案することで、教職員の意見を全校の取組に反映。 ・水曜日放課後の時間について、年間計画に研修を位置付け、教職員の学びの時間を確保した。	・水曜日放課後の分掌会・学年会を通じて協議された教職員の意見を、学校経営会議等の各種委員会に反映するという毎月のサイクルの内実化を図る。 ・取組による生徒の成長を職場・研修等で話題に出し、教職員がその成長に喜びを見出し、やりがいを実感できる機会とする。 ・日常的なコミュニケーションを通じて、風通しのよい職場の雰囲気を醸成する。	6		・時間外労働が少なくなる努力を推し進めてほしい。 ・ICTは業務改善に有効だと思うが、事前準備に時間がかかる。生徒がよく分かる授業をつくるには時間もかかり、バランスが大事なのではないか。	
			働きやすい職場づくりを推進する	○上限の目安時間を超えない時間管理の徹底(月45h) ○働く者の意識醸成(ワークライフバランス) ○定時退校日の厳守	⑦時間外在校時間 月45時間以内の職員の割合90% ⑧「子どもと向き合う時間が確保されている」と肯定的に回答する教職員の割合85%	1以上	⑦67.6% ⑧90.0%	⑦75% ⑧106%	B	・時間外在校時間45時間以内の職員の割合67.8%。長期休業以外の退校時刻が遅い教職員3割強。 ・子どもと向き合う時間の確保に係る教職員アンケート肯定的答率90%。 ・委員会や会議を時間割に組み込み、水曜日放課後の時間で年間を通して日課を工夫し、研修・会議等の時間を確保。子どもと向き合う時間を確保している教職員が9割いる一方、時間外在校時間が月45時間を超えている約3割の教職員の業務見直し、週1日の定時退校等の意識を高める必要がある。	・教職員の業務量を見直し、平準化を推進する。また、時間外勤務が当たり前でなく勤務時間内に業務を完結させる風土を醸成していく。引き続き、会議の効率化や合理的な報告・連絡・相談を工夫し、生徒と向き合う時間や授業改善の時間を生み出す。 ・週休日の大会引率等の業務を出張にすることを推奨し、振替を確實に行う。各自のワークライフバランスに合った年次有給休暇の取得を推進する。(平日の時間単位取得や休業中の連続取得等)	5	1

【j : 自己評価 評価】

A : 100≤(目標達成)

B : 80≤(ほぼ達成)<100

C : 60≤(もう少し)<80

D : (できていない)<60

【l : 学校関係者評価 評価】

イ : 自己評価は適正である。

ロ : 自己評価は適正でない。ハ:わからない。